

Hello! FUJISEI

No. 58

平均寿命が延び続ける状況下、年金、医療、介護など自らの老後生活に関する意識は否応なしに高まります。しかし、子どもとの同居など、老後をどのように生活するか、その環境によって、準備方法や優先順位も異なってきます。

「平成23年版 高齢者社会白書」から高齢者の家族と世帯についてみてみましょう。

65歳以上の高齢者のいる世帯は増え続けています。平成21年現在、世帯数2,013万世帯と初めて2,000万世帯を超え、全世帯(4,801万世帯)の41.9%を占めます。

これを世帯構造別の構成割合でみると、三世帯世帯は減少傾向を示す一方、単独世帯、親と未婚の子のみの世帯は増加傾向にあります。30年前の昭和55年では三世帯世帯の割合が一番多く、全体の半分を占めていましたが、平成21年では夫婦のみの世帯が3割と一番多くなり、単独世帯と合わせると半数を超える状況となっています。

思い描く老後生活と現実とのギャップは？

4割の世帯に高齢者 単独、夫婦のみ過半数

さらに、65歳以上の高齢者が世帯主である世帯（高齢世帯）も年々増加しています。

高齢世帯数は、平成42年には1,903万世帯と17年から約1.4倍に増加すると見込まれています。これに対して一般世帯総数は17年の4,906万世帯から27年には5,060万世帯とピークに達し、その後、42年には4,880万世帯に減少すると予想されています。この結果、一般世帯総数に占める高齢世帯の割合は、平成17年の

27.6%から42年には39.0%へと上昇します。

ところで、高齢者の心の支えとなっている人は誰なのかをみると、配偶者・パートナーを挙げる人が3分の2近く（65.3%）おり、また、子どもを挙げる人も6割近く（57.4%）となっています。

思い描く老後生活と現実とのギャップは大きいようです。

65歳以上の者がいる世帯数及び構成割合（世帯構造別）と全世帯に占める割合

